

確認テスト

所属 _____

氏名 _____

【事例】

Cさん、80代、男性、特別養護老人ホーム入所。脳血管性認知症

ときどき異食することがあり、職員は常日頃から注意していた。ある日、リビングのテーブルに座り、口をもぐもぐ動かしているCさんに職員が気づき、慌てて口の中を確認すると大量のティッシュペーパーを噛んでいた。職員が「ティッシュは食べ物ではありませんよ！すぐに出してください！」と慌てて制止し取り上げようとするも、何も聞こえていないような素振りで制止を振り切りティッシュを食べてしまった。

1) 異食の原因として考えられることは？認知症が及ぼす影響（中核症状）や心理面・身体面・環境面の影響など、原因として考えられることをあげてみましょう。

2) この職員の対応をどう思いますか？問題と思う点をあげてください。

3) あなたならどう対応しますか？適切な対応方法を考えてみましょう。

確認テスト 解説・解答例

- 1) 異食の原因として考えられることは？認知症が及ぼす影響（中核症状）や心理面・身体面・環境面の影響など、原因として考えられることをあげてみましょう。
- 2) この職員の対応をどう思いますか？問題と思う点をあげてください。
- 3) あなたならどう対応しますか？適切な対応方法を考えてみましょう。

1)

① 認知症による影響

認知症の代表的な中核症状の一つに「失認」があり、これは感じたものを正しく認識できないことである。異食は、見た目や味などで「食べ物ではない」という認識ができず、口に入れても判断できず、そのまま吐き出さずに飲み込んでしまう。また認知症の進行により判断力も低下し「とりあえず口に入れてみる」という行動につながると考えられる。

② 心理面や身体面、環境面の影響

- ・ 空腹だったため、つい反射的に口にしてしまった
- ・ つまらない、口寂しいといった精神状態にあった
- ・ 不安やストレスから手の届くものを口にしてしまった
- ・ テーブルの上にティッシュがあったため、食べ物と認識して食べてしまった

など

2)

異食を発見した際、強く注意したり無理やり取り上げようとする、取られないようにと慌てて食べてしまい、のどに詰まって窒息するリスクが高くなったり、興奮や暴力につながる恐れもある。また、「ティッシュは食べ物ではありません」と説明しても、客観的な事実の理解が困難になるため効果は見込めないことが多い。

3)

（異食を見つけときの対応例）

- ・ 無理やり取り上げない
- ・ 「よかったらこちらどうぞ」と本当の食べ物と交換する
- ・ 「お茶でもいれましょうか」など、本人の気をそらせて回収する

（異食の予防例）

- ・ 食べ物と誤認しやすい場所には置かない
- ・ 不安やストレスが原因と考えられる場合はストレスの原因を取り除いたり、食べる事以外のストレス解消法を見つける
- ・ 空腹が原因と考えられる場合は食事時間の見直しやおやつを提供を検討する
- ・ 本人が興味をひくこと、熱中できることを見つける

など

※ここにあげている対応方法はあくまで一例であり、「正解」ではありません。